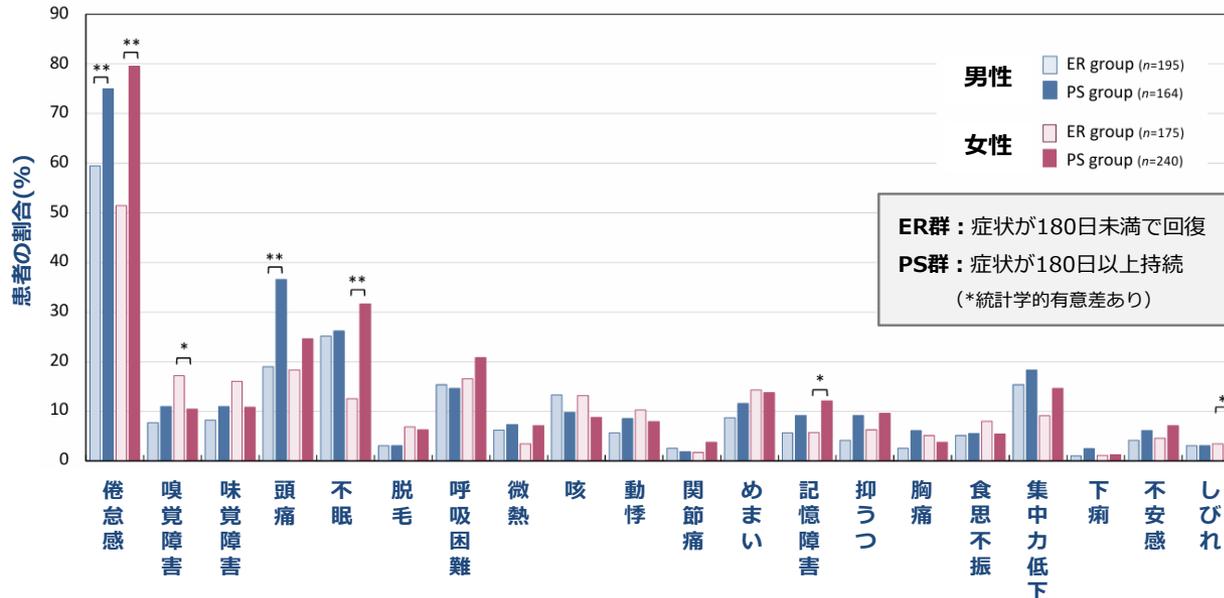


コロナ後遺症の長期化に関わる臨床的特徴

研究の背景：新型コロナウイルス罹患後症状（いわゆるコロナ後遺症）では、様々な症状を呈しますが、その病態の詳細は未だ解明されていません。本研究では症状の持続期間や性差に着目し、症状の長期化に関わる因子とその臨床的特徴について検討しました。

対象・方法：当院コロナ・アフターケア外来を受診して診療した**新型コロナウイルス罹患後症状患者774人**（2022年2月～2024年10月：オミクロン期）のうち、症状が180日未満で回復した**早期回復群（ER群：370人）**と180日以上持続した**持続症状群（PS群：404人）**について、後方視的に解析しました。



主な結果：

- 症状の持続期間は、後遺症外来受診後**180日未満**での早期回復群（ER群）と**180日以上**の診療が必要となる症状持続群（PS群）に分類できました。
- PS群には**女性が多く**、PS群女性では倦怠感・不眠・記憶障害・しびれの症状が、PS群男性では倦怠感・頭痛の症状が統計学的に多くみられました。
- PS群では、男女とも**3つ以上の多くの症状**を呈する患者が多く、ER群と比べて身体的・精神的疲労・生活の質（QOL）
・抑うつが全てが重症でした。

女性および3つ以上の多症状の存在が、後遺症の180日以上の長期化に繋がることが示されました